



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年2月8日

上場会社名 不二製油グループ本社株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2607 URL <https://www.fujiioilholdings.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 酒井 幹夫
 問合せ先責任者 (役職名) 連結グループリーダー (氏名) 永山 勝博 TEL 06-6459-0731
 四半期報告書提出予定日 2022年2月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け電話会議）

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	319,936	17.1	11,923	△11.8	11,752	△8.7	9,368	8.8
2021年3月期第3四半期	273,144	△6.3	13,522	△18.7	12,865	△14.9	8,613	△28.4

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 19,500百万円 (373.2%) 2021年3月期第3四半期 4,121百万円 (△16.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	108.98	—
2021年3月期第3四半期	100.21	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第3四半期	402,502	177,792	43.4	2,033.82
2021年3月期	358,511	162,890	44.6	1,861.67

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 174,831百万円 2021年3月期 160,023百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	26.00	—	26.00	52.00
2022年3月期	—	26.00	—	—	—
2022年3月期（予想）	—	—	—	26.00	52.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	430,000	17.9	15,000	△16.3	14,500	△17.5	11,500	4.4	133.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※詳細は、本日公表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」を参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料P.10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年3月期3Q	87,569,383株	2021年3月期	87,569,383株
2022年3月期3Q	1,607,191株	2021年3月期	1,612,196株
2022年3月期3Q	85,959,667株	2021年3月期3Q	85,957,488株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に対する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想値とは異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(追加情報)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

第1四半期連結会計期間より報告セグメントの変更を行っております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (セグメント情報等)」を参照下さい。以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分にて組み替えた数値で比較分析をしております。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間は、新型コロナウイルス感染症からの経済活動の再開による景況感の回復が見られたものの、新型コロナウイルス感染症変異型の出現による感染拡大動向やサプライチェーンの混乱、原材料価格の上昇などの世界的なインフレの進行などにより、世界経済の先行きは不透明な状況が続いています。当社主要原料であるパームや大豆につきましては、経済活動再開や米国クリーンエネルギー政策の影響に伴う需要の拡大期待に加え、生産地での労働者不足やサプライチェーンの遅れなどにより、原料価格が高値水準で推移しています。

このような状況下において、当社では原材料価格の上昇に応じた適正価格への改定を進めるとともに、各エリアの状況に応じた施策を実行しております。日本や東南アジアでは、需要回復に遅れが見られますが、多様化する需要に応じた提案を、また、中国では、ベーカリー市場の成長に対応した製品群の拡充を図っています。米州では、労働人員不足やサプライチェーンの混乱、ブラジルでの通貨安などの影響があるものの、生産性の改善などの次期成長に向けた施策に着手しています。欧州では、需要の回復が進んでいることから、積極的な拡販を進めています。

また、当連結会計年度は、前連結会計年度までの中期経営計画「Towards a Further Leap 2020」(2017-2020)で未達であった施策の再取り組み及び、翌年度から始まる新中期経営計画に向けた重要な期間であるという認識とともに、短中長期的な企業価値向上を進めるためグループ一丸となって取り組みを進めております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における経営成績は、以下のとおりとなりました。

なお、対前年同期比で親会社株主に帰属する四半期純利益が増加している主な要因は、第1四半期連結累計期間に計上したシンガポールにおける固定資産売却益及びブラジルにおける還付税金の特別利益によるものです。

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益
2022年3月期 第3四半期連結累計期間	319,936	11,923	11,752	9,368
2021年3月期 第3四半期連結累計期間	273,144	13,522	12,865	8,613
前年同期比 増減 (前年同期比 増減率)	+46,791 (+17.1%)	△1,598 (△11.8%)	△1,113 (△8.7%)	+754 (+8.8%)

セグメントごとの経営成績は、次のとおりです。

(単位：百万円)

	売上高	前年同期比 増減	前年同期比 (%)	営業利益	前年同期比 増減	前年同期比 (%)
植物性油脂	96,435	+24,272	+33.6%	5,665	+79	+1.4%
業務用チョコレート	137,822	+15,727	+12.9%	5,241	△203	△3.7%
乳化・発酵素材	59,488	+5,894	+11.0%	1,648	△559	△25.4%
大豆加工素材	26,189	+896	+3.5%	2,102	△835	△28.4%
連結消去・グループ管理費用	—	—	—	△2,735	△78	—
合計	319,936	+46,791	+17.1%	11,923	△1,598	△11.8%

(植物性油脂事業)

売上高は、主原料のパームの価格上昇に伴う販売価格の上昇に加え、新型コロナウイルス感染症の影響からの需要の回復による販売数量の伸長により、大幅な増収となりました。営業利益は、原材料価格の高騰による採算性の低下に加え、北米新工場の稼働開始に伴う減価償却費等の費用の増加などはありませんでしたが、経済活動の再開による販売数量の回復、東南アジアや欧州でのチョコレート用油脂などの販売数量の伸長などにより増益となりました。

(業務用チョコレート事業)

売上高は、販売数量の増加や原材料価格の上昇に伴う販売価格の上昇により、大幅な増収となりました。営業利益は、販売数量の増加による増益効果はあったものの、前年同期に計上したBlommer Chocolate Companyの先物益の剥落を主因に、減益となりました。

(乳化・発酵素材事業)

売上高は、国内連結子会社の連結除外に伴う減少の影響はありませんでしたが、原材料価格の上昇に伴う販売価格の上昇に加え、販売数量の回復により増収となりました。営業利益は、日本での販売数量の回復を主因とした増益要因はありませんでしたが、東南アジアでの工場統合による費用の増加や、中国での原材料価格の上昇による採算性の低下により、減益となりました。

(大豆加工素材事業)

売上高は、原材料価格の上昇に伴う販売価格の上昇に加え、大豆たん白素材の堅調な販売により、増収となりました。営業利益は、原材料価格の上昇に伴う採算性の低下に加え、千葉工場や欧州新工場建設等に伴う費用の増加により、減益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ439億90百万円増加し、4,025億2百万円となりました。引き続き、運転資本の圧縮やノンコア資産の売却等によりバランスシートを圧縮することおよびグループファイナンスの高度化により、財務体質を向上させ、経営の効率化を進めてまいります。

当第3四半期連結会計期間末における連結財政状態は、以下のとおりです。

(単位：百万円)

		2021年3月期	2022年3月期 第3四半期	増減
資産	流動資産	160,736	192,645	+31,908
	有形固定資産	129,435	136,804	+7,369
	無形固定資産	52,712	54,352	+1,640
	その他資産	15,626	18,699	+3,072
		358,511	402,502	+43,990
負債	有利子負債	131,309	148,293	+16,983
	その他負債	64,311	76,416	+12,104
		195,621	224,709	+29,088
	純資産	162,890	177,792	+14,902

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産は、原料価格の上昇に加え、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復に伴う販売数量の伸長による運転資本の増加により流動資産が増加しております。有形固定資産は、工場新設や既存設備の更新等により増加しております。以上の結果、前連結会計年度末に比べ439億90百万円増加し、4,025億2百万円となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債は、冬季賞与の支払いによる賞与引当金の減少や未払法人税等の減少はありませんでしたが、運転資本の増加や設備投資の実施に伴う有利子負債の増加により、前連結会計年度末に比べ290億88百万円増加し、2,247億9百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、配当金の支払いがありました。円安基調における為替換算調整勘定の変動に伴い、前連結会計年度末に比べ149億2百万円増加し、1,777億92百万円となりました。

この結果、1株当たり純資産は前連結会計年度末に比べ172円15銭増加し、2,033円82銭となりました。自己資本比率は前連結会計年度比1.2ポイント減少し、43.4%となりました。

(連結キャッシュ・フローの状況)

当社グループは、財務規律を維持・向上するためには有利子負債の削減が求められ、着実な利益成長とCCCの改善により、フリー・キャッシュ・フローを毎年100億円以上創出する必要があると認識しております。そのため、設備投資の抑制、ノンコア事業の売却及び政策保有株式の更なる削減等により、キャッシュ・フローをコントロールしております。

当第3四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は、以下のとおりです。

(単位：百万円)

	2021年3月期 第3四半期累計期間	2022年3月期 第3四半期累計期間	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	26,475	1,680	△24,795
投資活動によるキャッシュ・フロー	△10,885	△12,883	△1,998
フリー・キャッシュ・フロー	15,590	△11,203	△26,793
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,628	10,407	+18,036
現金及び現金同等物	26,865	20,154	△6,710

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、16億80百万円の収入となりました。前第3四半期連結累計期間に比べ、原料価格の上昇に加え、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復に伴う販売数量の伸長による運転資本の増加を主要因として、247億95百万円収入が減少しております。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、米国における植物性油脂事業の新規拠点建設、ドイツにおける欧米市場向け機能剤事業の新規拠点建設への設備投資等により、128億83百万円の支出となりました。前第3四半期連結累計期間に比べ、設備投資に伴う支出は減少したものの、前第3四半期連結累計期間に発生した国内子会社・海外子会社の株式譲渡に伴う貸付金の回収及び譲渡収入が剥落したことにより、19億98百万円支出が増加しております。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

前第3四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いや借入金の返済等により76億28百万円の支出となりましたが、当第3四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いによる支出があったものの、運転資本の増加や設備投資の実施に伴う追加借入により、104億7百万円の収入となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期業績予想につきましては、当第3四半期までの実績並びに足元の市場環境等に基づく見通しを勘案し、2021年11月9日に公表した予想数値を変更しております。詳細は、本日公表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」を参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,463	20,165
受取手形及び売掛金	65,954	82,139
商品及び製品	31,832	38,309
原材料及び貯蔵品	36,960	46,040
その他	5,746	6,241
貸倒引当金	△221	△251
流動資産合計	160,736	192,645
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	37,468	38,918
機械装置及び運搬具(純額)	49,472	55,962
土地	17,719	20,445
建設仮勘定	17,810	14,669
その他(純額)	6,963	6,809
有形固定資産合計	129,435	136,804
無形固定資産		
のれん	25,590	26,215
顧客関連資産	16,046	16,776
その他	11,075	11,359
無形固定資産合計	52,712	54,352
投資その他の資産		
投資有価証券	7,411	7,077
退職給付に係る資産	4,670	5,310
繰延税金資産	642	662
その他	2,778	5,568
貸倒引当金	△61	△61
投資その他の資産合計	15,441	18,557
固定資産合計	197,589	209,715
繰延資産		
社債発行費	185	141
繰延資産合計	185	141
資産合計	358,511	402,502

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	28,222	38,317
短期借入金	36,965	47,179
1年内償還予定の社債	—	10,000
コマーシャル・ペーパー	10,000	10,000
未払法人税等	2,608	1,109
賞与引当金	2,140	1,713
役員賞与引当金	87	13
その他	10,993	13,714
流動負債合計	91,017	122,048
固定負債		
社債	45,000	35,000
長期借入金	39,344	46,114
繰延税金負債	13,510	14,721
退職給付に係る負債	1,958	2,199
その他	4,790	4,626
固定負債合計	104,604	102,661
負債合計	195,621	224,709
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,208	13,208
資本剰余金	11,945	11,945
利益剰余金	152,675	157,528
自己株式	△1,968	△1,954
株主資本合計	175,860	180,728
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,810	1,590
繰延ヘッジ損益	483	433
為替換算調整勘定	△18,150	△8,026
退職給付に係る調整累計額	20	106
その他の包括利益累計額合計	△15,837	△5,896
非支配株主持分	2,866	2,960
純資産合計	162,890	177,792
負債純資産合計	358,511	402,502

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	273,144	319,936
売上原価	224,347	269,599
売上総利益	48,797	50,336
販売費及び一般管理費	35,274	38,412
営業利益	13,522	11,923
営業外収益		
受取利息	140	473
受取配当金	80	74
為替差益	—	196
持分法による投資利益	148	71
デリバティブ評価益	204	—
その他	354	381
営業外収益合計	929	1,196
営業外費用		
支払利息	1,082	698
為替差損	4	—
その他	499	668
営業外費用合計	1,586	1,367
経常利益	12,865	11,752
特別利益		
固定資産売却益	12	749
投資有価証券売却益	526	385
関係会社株式売却益	530	—
還付税金	—	744
特別利益合計	1,069	1,879
特別損失		
固定資産売却損	—	50
固定資産除却損	184	410
減損損失	774	43
関係会社株式評価損	102	—
関係会社事業再構築損失	—	242
特別損失合計	1,061	747
税金等調整前四半期純利益	12,874	12,884
法人税、住民税及び事業税	2,910	3,149
法人税等調整額	1,186	282
法人税等合計	4,096	3,432
四半期純利益	8,777	9,452
非支配株主に帰属する四半期純利益	163	84
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,613	9,368

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	8,777	9,452
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△562	△219
繰延ヘッジ損益	△350	△49
為替換算調整勘定	△3,884	10,115
退職給付に係る調整額	79	86
持分法適用会社に対する持分相当額	61	114
その他の包括利益合計	△4,656	10,047
四半期包括利益	4,121	19,500
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,786	19,308
非支配株主に係る四半期包括利益	335	191

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	12,874	12,884
減価償却費	10,659	11,269
のれん償却額	1,561	1,607
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△518	△640
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	140	343
受取利息及び受取配当金	△221	△547
支払利息	1,082	698
減損損失	774	43
持分法による投資損益 (△は益)	△148	△71
投資有価証券売却損益 (△は益)	△526	△385
固定資産処分損益 (△は益)	171	△288
関係会社株式売却損益 (△は益)	△530	—
関係会社株式評価損	102	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△7,858	△14,632
棚卸資産の増減額 (△は増加)	12,874	△12,017
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,038	8,895
その他	△1,322	△196
小計	31,152	6,963
利息及び配当金の受取額	226	291
利息の支払額	△1,191	△796
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△3,712	△4,778
営業活動によるキャッシュ・フロー	26,475	1,680
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△13,932	△12,714
有形固定資産の売却による収入	37	1,240
無形固定資産の取得による支出	△589	△881
投資有価証券の売却による収入	767	684
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	1,145	—
長期貸付金の回収による収入	1,739	15
長期前払費用の取得による支出	—	△764
その他	△52	△462
投資活動によるキャッシュ・フロー	△10,885	△12,883
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	13,603	11,533
長期借入れによる収入	5,099	10,326
長期借入金の返済による支出	△21,036	△6,436
配当金の支払額	△4,730	△4,475
非支配株主への配当金の支払額	△128	△105
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の売却による収入	79	—
その他	△515	△434
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,628	10,407
現金及び現金同等物に係る換算差額	325	497
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	8,286	△297
現金及び現金同等物の期首残高	18,578	20,452
現金及び現金同等物の四半期末残高	26,865	20,154

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、以下の5ステップアプローチに基づき、顧客への約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

ステップ1: 顧客との契約を識別する。

ステップ2: 契約における履行義務を識別する。

ステップ3: 取引価格を算定する。

ステップ4: 契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5: 履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

収益認識会計基準等の適用による主な変更点は以下のとおりです。

(1) 物品販売に係る収益認識

当社グループでは、主に植物性油脂や業務用チョコレート、乳化・発酵素材、大豆加工素材等の販売を行っており、このような物品販売は、物品を引渡した時点において、顧客が当該物品に対する支配を獲得することにより、当社グループの履行義務が充足され、上記収益認識の要件を満たすこととなります。

従来、国内の一部のグループ会社による国内での物品販売からの収益は、物品を工場又は倉庫より出荷した時点で収益を認識しておりましたが、顧客に物品を引き渡した時点において収益を認識することといたしました。

(2) 変動対価が含まれる取引に係る収益認識(リベート取引)

国内の一部のグループ会社による国内での物品販売に係る収益のうち、一部の取引高リベート並びに目標達成リベートについて、従来は、販売費及び一般管理費として費用計上しておりましたが、取引価格から減額する方法に変更しております。

(3) 原料有償支給取引に係る収益認識

国内の一部のグループ会社における原料有償支給取引について、従来は、有償支給した支給品について消滅を認識しておりましたが、支給品を買い戻す義務を負っている場合、当該支給品の消滅を認識しない方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取り扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高が673百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ33百万円増加しております。また利益剰余金の当期首残高は39百万円減少しております。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。これによる、当第3四半期連結累計期間に係る財務諸表への影響はありません。

(追加情報)

(取締役に対する株式報酬制度)

当社は、2020年6月18日開催の第92回定時株主総会決議に基づき、当社取締役（社外取締役を除く。）を対象に、取締役の報酬と当社の株式価値との連動性をより明確にし、取締役が株価の変動による利益・リスクを株主の皆様と共有することで、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として、株式報酬制度を導入しました。

本制度にかかる会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第30号 2015年3月26日）に準じております。

(1)取引の概要

本制度は、当社が金銭を拠出することにより設定する信託（以下「本信託」という。）が当社株式を取得し、当社が各取締役に付与するポイントの数に相当する数の当社株式が本信託を通じて各取締役に對して交付されるという株式報酬制度です。また、本制度においては、2021年3月31日で終了する事業年度から2023年3月31日で終了する事業年度までの3事業年度の間に在任する当社取締役に対して当社株式が交付されます。なお、取締役が当社株式の交付を受ける時期は、原則として取締役の退任時です。

(2)信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度343百万円、118,000株、当第3四半期連結会計期間328百万円、112,900株です。

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

当第3四半期連結累計期間において、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積りに重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

当前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは植物性油脂製品、業務用チョコレート製品、乳化・発酵素材製品及び大豆加工素材製品の製造販売を主として行っており、取り扱う製品群毎に国内外で事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、製品群を基礎とした事業別のセグメントから構成されており、「植物性油脂事業」、「業務用チョコレート事業」、「乳化・発酵素材事業」及び「大豆加工素材事業」の4つを報告セグメントとしております。

「植物性油脂事業」はパーム油及びパーム核油等を基礎原料とした食用加工油脂、食用油及びチョコレート用油脂等を製造販売しております。「業務用チョコレート事業」はチョコレート、コンパウンド及びココア製品を製造販売しております。「乳化・発酵素材事業」はクリーム、マーガリン及びフィリング等を製造販売しております。

「大豆加工素材事業」は大豆たん白素材、大豆たん白食品及び水溶性大豆多糖類等を製造販売しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	植物性油脂	業務用チョコレート	乳化・発酵 素材	大豆加工 素材	計		
売上高							
外部顧客への売上高	96,435	137,822	59,488	26,189	319,936	—	319,936
セグメント間の内部 売上高又は振替高	13,162	1,742	3,608	112	18,625	△18,625	—
計	109,598	139,564	63,096	26,302	338,561	△18,625	319,936
セグメント利益	5,665	5,241	1,648	2,102	14,658	△2,735	11,923

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,735百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用2,735百万円が含まれております。全社費用は、当社及び一部のエリア統括会社におけるグループ管理に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、従来「大豆加工素材」に含まれていた豆乳及びUSS豆乳製品事業の製造販売について、経営上の管理区分の見直しを行ったことにより、「乳化・発酵素材」に含めて表示する方法に変更しております。

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「会計方針の変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更しております。当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の外部顧客への売上が、「植物性油脂」は、871百万円減少、「業務用チョコレート」、「乳化・発酵素材」、「大豆加工素材」はそれぞれ76百万円、53百万円、67百万円増加しております。また、セグメント利益が「植物性油脂」、「業務用チョコレート」、「乳化・発酵素材」及び「大豆加工素材」でそれぞれ10百万円、13百万円、0百万円、9百万円増加しております。

不二製油グループ本社（株） 決算補足資料

2021年度（2022年3月期）

- 第3四半期 -

ページ	項目
1	表紙
2	0-1 : 注記 / 為替情報
3	1-1 : 2021年度 連結業績 3Q(3ヶ月)
4	1-2 : 2021年度 連結業績 3Q累計
5	1-3 : 2021年度 連結業績 (3Q累計/事業別・所在地別マトリクス)
6	2-1 : 主な指標
7	3-1 : 2021年度 連結業績予想
8	3-2 : 2021年度 連結業績予想 (通期/事業別・所在地別マトリクス)
9	3-3 : 2021年度 業績予想の修正について

0-1 : 注記 / 為替情報

注記情報

・2019年度 決算期変更の実施

2019年度は、海外グループ会社（ブラマー、豪州IFSを除く）の決算期変更の為、15ヶ月の変則決算となっております。
そのため、一部資料では調整した数値を記載しております。

・一部製品のセグメントの変更による遡及修正

2021年度より、一部製品を大豆加工素材セグメントから乳化・発酵素材セグメントへ組み替えています。
その為、2020年度及び2019年度の数値を参考値として遡及修正して表示しています。

主な為替レート

・P/L：期中平均レート、B/S：期末レート

		2020年度	2020年度	2021年度	対前年同期		2021年度 計画前提※
		3Q	期末	3Q	差	増減率	
\$	P/L	106.11	106.06	111.10	+4.99	+4.7%	111.10
	B/S	103.50	110.71	115.02	+4.31	+3.9%	-
BRL	P/L	19.71	19.62	20.72	+1.01	+5.1%	20.72
	B/S	19.92	19.44	20.61	+1.17	+6.0%	-
€	P/L	122.38	123.70	130.62	+8.24	+6.7%	130.62
	B/S	126.95	129.80	130.51	+0.71	+0.5%	-
人民幣元	P/L	15.44	15.67	17.25	+1.81	+11.7%	17.25
	B/S	15.88	16.84	18.06	+1.22	+7.2%	-

・P/Lは前年同期を、B/Sは前年度期末（2020年度末）を比較

・2021年度 3Qのブラマーに適用した為替レート(\$)は、P/L 109.55、B/S 114.03

※計画前提P/Lレートは、2022年2月時点の見通しの数値

1-1: 2021年度 連結業績3Q(3ヶ月)

(単位: 億円)

	FY2020 3Q実績	FY2021 3Q実績	前年同期比 増減額	増減要因(対前年同期比較)	
売上高	植物性油脂	252	347	+96	原材料価格上昇による販売価格の上昇、米州・欧州での販売数量の増加により増収。
	業務用チョコレート	470	502	+32	日本、ブラジル、中国、東南アジア、欧州での販売数量の増加、また販売価格の上昇により増収。
	乳化・発酵素材	199	218	+19	販売価格の上昇に加え、中国での販売数量の増加等により増収。
	大豆加工素材	85	86	+2	日本の大豆たん白素材や、中国の機能剤の販売数量が増加し増収。
	合計	1,006	1,154	+149	
営業利益	植物性油脂	22	14	▲8	【↑】各エリアで価格改定に注力し、東南アジア・欧州においてチョコレート用油脂（CBE）が堅調に推移したことから、採算性が向上。 【↓】米国のハリケーンやコロナ影響による油脂新工場の稼働開始時期・拡販の遅れにより赤字増加(▲5億円)。また、一部の低採算取引の契約履行や物流費・人件費の高騰による米国油脂の採算悪化。
	業務用チョコレート	26	24	▲2	【↑】各エリアで需要の回復に対応した拡販により採算性が改善。 【↓】ブラマーは、物流費・人件費高騰に加え、欠勤対応や残業・週末稼働による追加コストの発生、メンテナンス費用の増加。
	乳化・発酵素材	16	7	▲9	【↑】日本の洋菓子向け、中国のベーカリー市場向けへの販売数量の増加。 【↓】原材料価格の一段高により、更なる価格改定を実施も、中国・東南アジアを中心に浸透の遅れなどにより採算性が低下。
	大豆加工素材	7	3	▲3	【↑】新工場稼働による大豆たん白素材の販売数量の増加。 【↓】コモディティ品の競争に加え、価格改定の遅れにより採算性が低下。
	グループ管理費用	▲8	▲9	▲0	
合計	62	40	▲22		
営業利益率	6.1%	3.5%	▲2.7pt		
経常利益	60	41	▲19		
四半期純利益	43	34	▲9		

●業績概要

売上高は原材料高に対応した価格改定及び販売数量の増加により149億円の増収になりました。
営業利益は▲22億円の減益。拡販や価格改定への注力、コストダウン、経費削減により原材料高の影響を一部抑制も、原材料価格の一段高による更なる価格改定の遅れ、米国新工場のハリケーンや新型コロナウイルス影響による拡販遅れ、米州油脂の一部低採算契約の履行に伴う採算性の低下、また物流費や人件費の高騰を主要因に減益となりました。

●特記事項

- ・上記業績は億円未満を四捨五入した数値を記載しております。
- ・2021年度より、大豆加工素材事業の豆乳およびUSS豆乳製品を乳化・発酵素材事業に組み替えたため、2020年度の値を遡及修正して表示しております。

1-2: 2021年度 連結業績 3Q累計

(単位: 億円)

		FY2020 3Q累計	FY2021 3Q累計	前年同期比 増減額	増減要因(対前年同期比較)
売上高	植物性油脂	722	964	+243	原材料価格上昇による販売価格の上昇、販売数量の増加により増収。
	業務用チョコレート	1,221	1,378	+157	販売数量の増加により増収。
	乳化・発酵素材	536	595	+59	日本におけるトーラクの譲渡による減収要因はあったが、中国を主とした各エリアでの販売数量の増加、販売価格の上昇により増収。
	大豆加工素材	253	262	+9	大豆たん白素材の販売数量の増加、販売価格の上昇を主因に増収。
	合計	2,731	3,199	+468	
営業利益	植物性油脂	56	57	+1	【ノ】各エリアでの価格改定への注力による採算維持に加え、需要の回復が見られるエリアでの拡販を実施。 【ハ】米州にて遅れていた低採算案件の顧客引き取りが、3Qに発生し採算性が低下。また、3Qから本格稼働した米州の新工場がハリケーンや、新型コロナウイルスの影響による低稼働により赤字幅拡大(▲9億円)。
	業務用チョコレート	54	52	▲2	【ノ】コロナ禍からの需要回復を確実にとらえた積極的な拡販活動により販売数量が増加。 【ハ】プラマーでの生産性安定化に取り組むもコロナ禍で人材確保の遅延・未達、また、緊急雇用対策として人件費が急増。更に、米国内物流費の上昇、ローリーの確保難が発生し、原料調達・販売に影響、老朽化対策設備投資の遅延による設備トラブルによるメンテナンス費用の増加。
	乳化・発酵素材	22	16	▲6	【ノ】顧客需要をとらえた積極的な拡販による販売数量の増加に加え、日本の洋菓子向けの販売数量の増加。 【ハ】原材料価格の一段高による、中国・東南アジアでの価格改定の遅れ、東南アジアでの物流混乱による出荷遅延。
	大豆加工素材	29	21	▲8	【ノ】日本での大豆たん白素材の堅調な需要に加え、価格改定を実施。 【ハ】原材料価格の高止まりを受けた更なる価格改定の遅れや、コモディティ品の競争激化による収益性の低下。前期比では欧州の新工場の費用も負担。
	グループ管理費用	▲27	▲27	▲1	
	合計	135	119	▲16	
営業利益率		5.0%	3.7%	▲1.2pt	
経常利益		129	118	▲11	
四半期純利益		86	94	+8	固定資産売却益の計上等により増加。
●業績概要	<p>売上高は原材料高に対応した価格改定及び販売数量の増加により468億円の増収になりました。 営業利益は▲16億円の減益。需要の回復を背景とした費用の増加を、拡販や価格改定による増収効果で一部はカバーしたものの、3Q以降の原材料価格の一段高による更なる価格対応や、世界規模での物流混乱の長期化、また、米州油脂での特殊要因等により減益となりました。</p>				
●特記事項	<p>・上記業績は億円未満を四捨五入した数値を記載しております。 ・2021年度より、大豆加工素材事業の豆乳およびUSS豆乳製品を乳化・発酵素材事業に組み替えたため、2020年度の値を遡及修正して表示しております。</p>				

1-3 : 2021年度 連結業績 (3Q累計/事業別・所在地別マトリクス)

(単位：百万円)

売上高	年度※	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結計	
		実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比
植物性油脂	FY2021 3Q	32,020	+5,658	30,349	+8,122	14,538	+3,745	2,226	+133	17,299	+6,613	96,435	+24,272
	FY2020 3Q	26,362	-	22,227	-	10,793	-	2,093	-	10,686	-	72,163	-
	FY2019 (4-12月)	26,594	-	20,585	-	12,046	-	2,065	-	11,534	-	72,824	-
業務用チョコレート	FY2021 3Q	29,657	+3,099	90,944	+8,542	8,800	+1,914	4,922	+882	3,497	+1,291	137,822	+15,727
	FY2020 3Q	26,558	-	82,402	-	6,886	-	4,040	-	2,206	-	122,094	-
	FY2019 (4-12月)	28,837	-	88,483	-	8,051	-	2,287	-	2,655	-	130,314	-
乳化・発酵素材	FY2021 3Q	39,184	+1,202	-	-	8,426	+1,597	11,876	+3,095	-	-	59,488	+5,894
	FY2020 3Q	37,982	-	-	-	6,829	-	8,781	-	-	-	53,593	-
	FY2019 (4-12月)	46,933	-	-	-	7,233	-	8,853	-	-	-	63,018	-
大豆加工素材	FY2021 3Q	24,592	+563	-	-	-	-	1,596	+333	-	-	26,189	+896
	FY2020 3Q	24,029	-	-	-	-	-	1,263	-	-	-	25,292	-
	FY2019 (4-12月)	23,796	-	-	-	-	-	1,552	-	-	-	25,349	-
売上高計	FY2021 3Q	125,455	+10,523	121,294	+16,664	31,766	+7,258	20,622	+4,444	20,796	+7,903	319,936	+46,791
	FY2020 3Q	114,932	-	104,630	-	24,508	-	16,178	-	12,893	-	273,144	-
	FY2019 (4-12月)	126,161	-	109,068	-	27,331	-	14,756	-	14,189	-	291,505	-

上記売上高は外部顧客への売上高を記載しています。

営業利益	年度※	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結調整		グループ管理費用		連結計	
		実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比
植物性油脂	FY2021 3Q	3,042	▲155	256	▲924	1,477	+577	▲9	▲151	865	+812	34	▲77	-	-	5,665	+79
	FY2020 3Q	3,197	-	1,180	-	900	-	142	-	53	-	111	-	-	-	5,586	-
	FY2019 (4-12月)	3,514	-	1,881	-	826	-	171	-	875	-	89	-	-	-	7,357	-
業務用チョコレート	FY2021 3Q	4,818	+631	▲124	▲1,016	324	+62	101	+261	102	▲133	17	▲11	-	-	5,241	▲203
	FY2020 3Q	4,187	-	892	-	262	-	▲160	-	235	-	28	-	-	-	5,445	-
	FY2019 (4-12月)	5,239	-	▲439	-	647	-	93	-	330	-	9	-	-	-	5,880	-
乳化・発酵素材	FY2021 3Q	1,577	+559	-	-	▲556	▲513	447	▲654	-	-	180	+48	-	-	1,648	▲559
	FY2020 3Q	1,018	-	-	-	▲43	-	1,101	-	-	-	132	-	-	-	2,208	-
	FY2019 (4-12月)	1,900	-	-	-	337	-	1,008	-	-	-	132	-	-	-	3,377	-
大豆加工素材	FY2021 3Q	2,047	▲660	-	-	-	-	255	▲68	▲231	▲191	31	+82	-	-	2,102	▲835
	FY2020 3Q	2,707	-	-	-	-	-	323	-	▲40	-	▲51	-	-	-	2,938	-
	FY2019 (4-12月)	2,756	-	-	-	-	-	429	-	▲13	-	59	-	-	-	3,232	-
連結調整	FY2021 3Q	104	+78	2	▲4	▲1	▲3	6	▲8	▲3	▲95	▲108	+35	-	-	-	-
	FY2020 3Q	26	-	6	-	2	-	14	-	92	-	▲143	-	-	-	-	-
	FY2019 (4-12月)	109	-	▲0	-	38	-	38	-	▲87	-	▲97	-	-	-	-	-
グループ管理費用	FY2021 3Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲2,735	▲78	▲2,735	▲78
	FY2020 3Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲2,656	-	▲2,656	-
	FY2019 (4-12月)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲2,741	-	▲2,741	-
営業利益計	FY2021 3Q	11,590	+452	134	▲1,945	1,244	+122	800	▲622	733	+393	154	+78	▲2,735	▲78	11,923	▲1,598
	FY2020 3Q	11,138	-	2,079	-	1,122	-	1,422	-	340	-	76	-	▲2,656	-	13,522	-
	FY2019 (4-12月)	13,521	-	1,442	-	1,847	-	1,740	-	1,104	-	192	-	▲2,741	-	17,105	-

※「FY2019（4-12月）」は、2019年4-12月の各社決算数値を参考値として記載しています。（プラマー、豪州IFSを除く）

※2021年度より、大豆加工素材事業の豆乳およびUSS豆乳製品は、乳化・発酵素材事業に振り替えて表示しています。その為、2020年度及び2019年度の数値を参考値として遡及修正して表示しています。

2-1:主な指標

大項目	項目	単位	備考	2018	2019 15ヶ月決算	2020	2020 3Q累計	2021(累計実績)				2021 修正予想
								1Q	2Q	3Q	4Q	
PL項目	営業利益	億円		185	236	179	135	41	79	119		150
	営業利益成長率	%		▲9.5%	*1	*1	▲18.7%	▲3.4%	+7.8%	▲11.8%		▲16.3%
	EBITDA	億円	*2	312	415	343	257	83	163	248		+5
	設備投資	億円		159	180	208	154	39	84	138		190
	減価償却	億円		110	130	118	87	30	61	93		-
	ROA	%		5.5%	5.9%	4.8%	4.7%	4.1%	4.1%	4.0%	*3	-
	ROE	%		7.3%	10.5%	7.0%	7.5%	8.7%	7.2%	7.3%		-
	売上高純利益率	%		3.8%	3.9%	3.0%	3.2%	3.6%	2.9%	2.9%		-
	総資産回転率*4	回		0.77	1.13	1.02	1.00	1.09	1.11	1.10		-
	財務レバレッジ	倍		2.5	2.4	2.2	2.4	2.2	2.2	2.3		-
ROIC	%		4.0%	5.1%	4.0%	3.9%	3.7%	3.5%	3.4%		-	
BS項目	総資産	億円		3,905	3,674	3,585	3,609	3,640	3,736	4,025		-
	有利子負債	億円		1,605	1,462	1,313	1,433	1,335	1,350	1,483		-
	NET有利子負債	億円		1,392	1,276	1,108	1,164	1,149	1,191	1,281		-
	NET運転資本	億円		171	632	697	639	716	719	706		-
	自己資本比率	%		40.1%	42.3%	44.6%	42.3%	45.8%	45.3%	43.4%		-
	負債比率	%		147.9%	134.7%	122.2%	134.4%	116.8%	119.0%	128.5%		-
	のれん(広義)	億円		605	527	466	480	487	479	484		-
	のれん償却額	億円		7	24	21	16	5	11	16		-
	のれん(広義)純資産比率	%		38%	33%	29%	31%	29%	28%	27%		-
	D/レシオ	倍		1.03	0.94	0.82	0.94	0.80	0.80	0.85		-
Net D/レシオ	倍		0.87	0.75	0.63	0.67	0.65	0.66	0.71		-	
CF項目	営業キャッシュフロー	億円		226	371	382	265	32	31	17		-
	投資キャッシュフロー	億円		▲791	▲183	▲174	▲109	▲45	▲82	▲129		-
	フリーキャッシュフロー	億円		▲565	188	208	156	▲14	▲51	▲112		-
	財務キャッシュフロー	億円		655	▲207	▲199	▲76	▲9	3	104		-
	CCC	日		105	113	107	110	103	105	110		-

*1 FY2019、2020の営業利益成長率：FY2019が15ヶ月決算のため非表示。

*2 過年度のEBITDA：遡及修正した値を記載。

*3 FY2020.3Q累計、FY2021.1Q~3Q累計のROA、ROE、ROIC：年間換算した参考値を記載。

*4 年度は期末総資産、四半期は期首と期末の平均値の総資産を用いて算出。

*5 2021年11月時点の計画。

※補足：主な設備投資

年度	主な投資項目	億円
2021	米州 油脂 新拠点設立	10
3Q累計	米州 プラマー設備投資	22
	米州 ハラルド新工場・設備投資など	5
	欧州 水溶性えんどう糖類の新工場設立	22
	計	138
2021	米州 油脂 新拠点設立	11
計画	米州 プラマー設備投資	42
	米州 ハラルド新工場・設備投資など	25
	中国 生産ライン拡張	23
	計	190

株主還元

株主還元方針
・配当性向30-40%
・安定かつ継続的な配当の実施

1株当たりの配当金の推移 (単位：円)

年度	中間配当	期末配当	合計	配当性向
2013	13	13	26	27.4%
2014	13	17	30	27.6%
2015	17	18	35	32.6%
2016	22	22	44	31.2%
2017	23	25	48	30.0%
2018	25	25	50	37.1%
2019	27	29	56	29.4%
2020	26	26	52	40.6%
2021 予想	26	26	52	38.9%

3-1： 2021年度 連結業績予想

(単位：億円)

	通期							備考
	FY2020 実績	FY2021 期初予想	FY2021 11月修正予想 (2021年11月)	FY2021 2月修正予想 (2022年2月)	増減額 FY2020 実績 VS FY2021 2月修正予想	増減額 FY2021 11月修正予想 VS FY2021 2月修正予想		
売上高	植物性油脂	984	1,075	1,301	1,305	+321	+4	原材料価格の上昇による販売価格の上昇により増収。
	業務用チョコレート	1,624	1,762	1,839	1,853	+229	+14	販売数量の増加により増収。
	乳化・発酵素材	706	803	793	793	+87	-	日本や中国での販売数量の回復等により増収。
	大豆加工素材	333	360	367	349	+16	▲18	販売数量の増加に加え、販売価格の上昇を見込み増収。
	合計	3,648	4,000	4,300	4,300	+652	-	
営業利益	植物性油脂	79	62	75	72	▲7	▲3	東南アジアや欧州でのチョコレート用油脂が堅調、また価格改定も計画並みに進捗も、米州新工場の拡販遅れや、4Q以降の更なる原材料価格上昇による採算性低下を見込み、減益。
	業務用チョコレート	76	89	86	71	▲5	▲15	販売数量の回復、価格改定の浸透による増益要因も、米国での経費の増加、オミクロン株拡大による生産数量未達により、計画を修正。前期比では先物益剥落を主因に、減益。
	乳化・発酵素材	27	38	29	19	▲8	▲11	日本での洋菓子向けの堅調な販売や、価格改定の浸透を見込むも、東南アジアや中国での価格改定の遅れ等により減益。
	大豆加工素材	35	34	30	26	▲9	▲4	大豆たん白素材の販売は堅調な推移を見込むも、価格改定による一部製品群の販売数量の減少や、採算性の低下を見込み、減益。
	グループ管理費用	▲38	▲42	▲41	▲38	▲0	+3	
合計	179	180	180	150	▲29	▲30		
営業利益率	4.9%	4.5%	4.2%	3.5%	▲1.4pt	▲0.7pt		
経常利益	176	168	168	145	▲31	▲23		
親会社株主に帰属する当期純利益	110	115	115	115	+5	-		

●業績概要

売上高：原材料価格の上昇等により増収を計画。11月修正予想からの修正は無し。
 営業利益：原材料価格の高止まりによる採算性の低下に加え、物流費・人件費の上昇、米国油脂の新工場の拡販遅れにより減益。11月修正予想から▲30億円の修正。

●特記事項

・上記業績は億円未満を四捨五入した数値を記載しております。
 ・2021年度より、大豆加工素材事業の豆乳およびUSS豆乳製品を乳化・発酵素材事業に組み替えたため、2020年度の値を遡及修正して表示しております。

3-2: 2021年度 連結業績予想 (通期/事業別・所在地別マトリクス)

(単位:百万円)

売上高	年度 ※	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結計	
		前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	
植物性油脂	2021 修正計画 (22年2月)	42,700	+7,479	42,800	+12,467	19,700	+4,713	2,800	+86	22,500	+7,344	130,500	+32,087
	2021 修正計画 (21年11月)	40,800	+5,579	46,500	+16,167	18,700	+3,713	2,500	▲214	21,600	+6,444	130,100	+31,687
	2021 期初計画	35,700	+479	38,000	+7,667	16,400	+1,413	2,800	+86	14,600	▲556	107,500	+9,087
	2020 実績	35,221	-	30,333	-	14,987	-	2,714	-	15,156	-	98,413	-
業務用チョコレート	2021 修正計画 (22年2月)	40,500	+4,229	121,000	+13,262	12,100	+2,371	6,900	+1,272	4,800	+1,724	185,300	+22,855
	2021 修正計画 (21年11月)	41,900	+5,629	118,700	+10,962	12,100	+2,371	6,600	+972	4,600	+1,524	183,900	+21,455
	2021 期初計画	38,400	+2,129	114,100	+6,362	12,100	+2,371	7,900	+2,272	3,700	+624	176,200	+13,755
	2020 実績	36,271	-	107,738	-	9,729	-	5,628	-	3,076	-	162,445	-
乳化・発酵素材	2021 修正計画 (22年2月)	52,200	+2,475	-	-	11,200	+1,992	15,900	+4,236	-	-	79,300	+8,701
	2021 修正計画 (21年11月)	52,200	+2,475	-	-	11,000	+1,792	16,100	+4,436	-	-	79,300	+8,701
	2021 期初計画	52,500	+2,775	-	-	11,000	+1,792	16,800	+5,136	-	-	80,300	+9,701
	2020 実績	49,725	-	-	-	9,208	-	11,664	-	-	-	70,599	-
大豆加工素材	2021 修正計画 (22年2月)	32,900	+1,256	-	-	-	-	2,000	+323	-	-	34,900	+1,579
	2021 修正計画 (21年11月)	34,600	+2,956	-	-	-	-	2,000	+323	100	+100	36,700	+3,379
	2021 期初計画	33,900	+2,256	-	-	-	-	2,000	+323	100	+100	36,000	+2,679
	2020 実績	31,644	-	-	-	-	-	1,677	-	-	-	33,321	-
売上高計	2021 修正計画 (22年2月)	168,300	+15,437	163,800	+25,729	43,000	+9,075	27,600	+5,915	27,300	+9,068	430,000	+65,221
	2021 修正計画 (21年11月)	169,500	+16,637	165,200	+27,129	41,800	+7,875	27,200	+5,515	26,300	+8,068	430,000	+65,221
	2021 期初計画	160,500	+7,637	152,100	+14,029	39,500	+5,575	29,500	+7,815	18,400	+168	400,000	+35,221
	2020 実績	152,863	-	138,071	-	33,925	-	21,685	-	18,232	-	364,779	-

上記売上高は外部顧客への売上高を記載しています。

営業利益	年度 ※	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結調整		グループ管理費用		連結計	
		前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	
植物性油脂	2021 修正計画 (22年2月)	3,791	▲659	377	▲1,550	1,794	+703	▲17	▲184	1,175	+1,100	75	▲85	-	-	7,195	▲677
	2021 修正計画 (21年11月)	3,835	▲615	1,120	▲807	1,222	+131	▲32	▲199	1,168	+1,093	181	+21	-	-	7,495	▲377
	2021 期初計画	3,499	▲951	1,127	▲800	793	▲298	▲61	▲228	754	+679	48	▲112	-	-	6,160	▲1,712
	2020 実績	4,450	-	1,927	-	1,091	-	167	-	75	-	160	-	-	-	7,872	-
業務用チョコレート	2021 修正計画 (22年2月)	6,169	+295	207	▲1,061	565	+216	8	+174	120	▲113	17	▲31	-	-	7,086	▲522
	2021 修正計画 (21年11月)	6,678	+804	1,215	▲53	610	+261	▲42	+124	112	▲121	36	▲12	-	-	8,611	+1,003
	2021 期初計画	5,765	▲109	2,116	+848	798	+449	39	+205	137	▲96	33	▲15	-	-	8,888	+1,280
	2020 実績	5,874	-	1,268	-	349	-	▲166	-	233	-	48	-	-	-	7,608	-
乳化・発酵素材	2021 修正計画 (22年2月)	1,854	+394	-	-	▲763	▲611	592	▲726	-	-	180	+107	-	-	1,863	▲836
	2021 修正計画 (21年11月)	1,601	+141	-	-	▲334	▲182	1,477	+159	-	-	200	+127	-	-	2,945	+246
	2021 期初計画	1,662	+202	-	-	274	+426	1,801	+483	-	-	39	▲34	-	-	3,776	+1,077
	2020 実績	1,460	-	-	-	▲152	-	1,318	-	-	-	73	-	-	-	2,699	-
大豆加工素材	2021 修正計画 (22年2月)	2,576	▲729	-	-	-	-	343	+12	▲327	▲201	31	+53	-	-	2,624	▲864
	2021 修正計画 (21年11月)	2,669	▲636	-	-	-	-	580	+249	▲333	▲207	89	+111	-	-	3,006	▲482
	2021 期初計画	3,040	▲265	-	-	-	-	644	+313	▲365	▲239	72	+94	-	-	3,391	▲97
	2020 実績	3,305	-	-	-	-	-	331	-	▲126	-	▲22	-	-	-	3,488	-
連結調整	2021 修正計画 (22年2月)	145	+95	2	▲2	▲1	▲6	6	▲13	▲3	▲123	▲149	+51	-	-	-	-
	2021 修正計画 (21年11月)	215	+165	▲1	▲5	4	▲1	23	+4	32	▲88	▲274	▲74	-	-	-	-
	2021 期初計画	192	+142	-	▲4	-	▲5	-	▲19	-	▲120	▲192	+8	-	-	-	-
	2020 実績	50	-	4	-	5	-	19	-	120	-	▲200	-	-	-	-	-
グループ管理費用	2021 修正計画 (22年2月)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲3,773	▲17	▲3,773	▲17
	2021 修正計画 (21年11月)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲4,059	▲303	▲4,059	▲303
	2021 期初計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲4,215	▲459	▲4,215	▲459
	2020 実績	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲3,756	-	▲3,756	-
営業利益計	2021 修正計画 (22年2月)	14,538	▲602	586	▲2,614	1,594	+300	932	▲738	965	+662	154	+96	▲3,773	▲17	15,000	▲2,911
	2021 修正計画 (21年11月)	15,000	▲140	2,334	▲866	1,504	+210	2,007	+337	978	+675	233	+175	▲4,059	▲303	18,000	+89
	2021 期初計画	14,158	▲982	3,243	+43	1,865	+571	2,423	+753	526	+223	-	▲58	▲4,215	▲459	18,000	+89
	2020 実績	15,140	-	3,200	-	1,294	-	1,670	-	303	-	58	-	▲3,756	-	17,911	-

※2021年度より、大豆加工素材事業の豆乳およびFUSS豆乳製品は、乳化・発酵素材事業に含めて表示しています。その為、2020年度の数値を過及修正して表示しています。

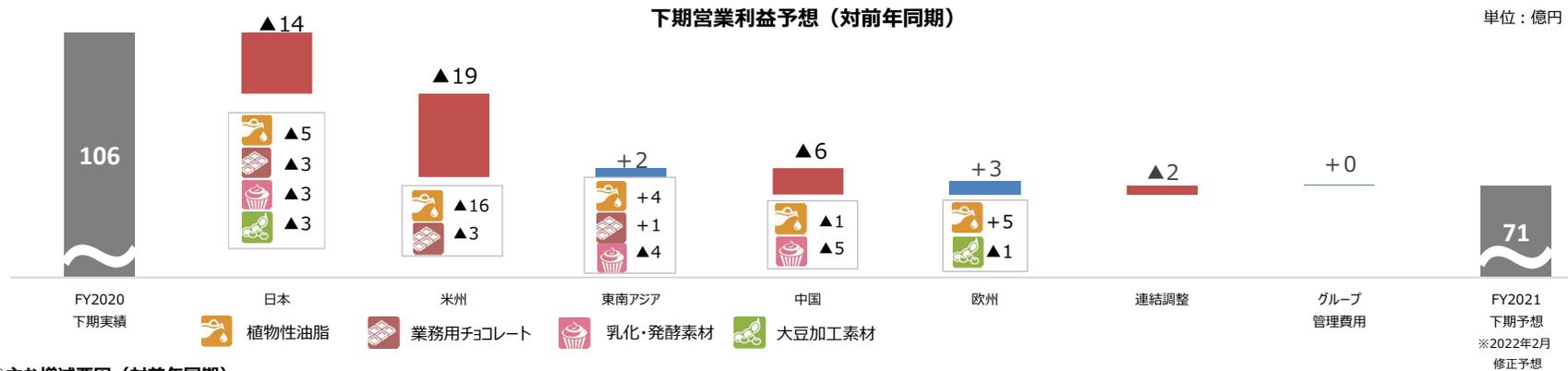
3-3: 2021年度 業績予想の修正について

2021年11月に公表した通期業績予想では、期初予想の営業利益計画（180億円）を据え置いておりましたが、第3四半期の業績や直近の動向を踏まえ、通期営業利益の予想を150億円に下方修正しました。

(単位：億円)

	FY2020 実績	FY2021 期初予想	FY2021 修正予想 (2021年11月公表)	FY2021 修正予想 (2022年2月公表)
売上高	3,648	4,000	4,300	4,300
営業利益	179 (上期73、下期106)	180 (上期70、下期110)	180 (上期79、下期101)	150 (上期79、下期71)
経常利益	176	168	168	145
親会社株主に帰属する当期純利益	110	115	115	115

①エリア別 営業利益増減要因 (対前年同期)



②主な増減要因 (対前年同期)

エリア	増減	項目	要因
日本	↘	採算性の低下・販売数量減少	前年同期のスポット需要の剥落による販売数量の減少や、原材料高による採算性の低下を見込み、各セグメントで減益を計画。
米州	↘	新工場の費用増加 (米国・油脂)	今期より稼働を開始した油脂新工場の拡販遅れによる収益性の低下。
	↘	原料ポジション損 (米国・油脂)	原材料高影響により低採算化した一部契約の履行が3Qを中心に行われ、採算性が低下。
	↘	労働者不足、人件費の高騰 (米国・油脂、チョコレート)	労働者不足により人件費が高騰。また自社の生産体制構築の遅れに加え、顧客での人員不足による生産量の減少も影響。
	↗	販売数量の増加、採算改善 (ブラジル・チョコレート)	生産量確保と積極的な拡販、及び継続的な価格改定が原材料高、レアル安による原価上昇をカバー。
東南アジア	↗	販売数量の増加	高付加価値なチョコレート用油脂であるCBEの販売が堅調に推移。
中国	↘	採算性の低下	競争環境激化により、価格改定による収益確保の計画が未達となる見込み。
欧州	↗	販売数量の増加	高付加価値なチョコレート用油脂であるCBEの販売が堅調に推移。